

平成 13 年度岩手県工業技術研究推進会議部会の課題評価

1 岩手県工業技術センター試験研究評価のねらい

試験研究業務の効率的な推進を図り、もって本県工業の技術水準の向上と産業の振興に寄与する。

企業ニーズ、委員の意見等を研究テーマに反映

研究成果等の企業への技術移転

職員の意識向上、組織の活性化

2 試験研究課題の検討

(1) 検討経過

新規テーマ7課題センター内ヒアリング(6月11日)

所長、副所長、総務、企画情報、担当部長、企画情報部員、予算担当者
研究担当者試験研究評価調書作成

担当部長評価

試験研究32課題センター内ヒアリング(10月17日、19日、22日)

所長、副所長、総務部長、企画情報部長、担当部長からなる工業技術センター試験研究評価委員会で内部評価

岩手県工業技術研究推進会議部会で外部評価

センター内対応

外部評価結果等を踏まえ、研究内容や成果の技術移転について検討を行い、今後の試験研究事業の推進に反映

(2) 部会の開催

岩手県工業技術研究推進会議設置要綱第6条の規定に基づき、下記の日程で開催。

食品技術部会：平成13年10月26日(金)13:30~15:55

食品開発部 3課題 阿部委員、菅原委員

食品技術部会：平成13年10月31日(水)13:30~17:00

醸造技術部 6課題 佐藤委員、五枚橋、小野委員

生産技術部会：平成13年11月1日(木)13:30~17:25

電子機械部、特産開発デザイン部 12課題 名須川委員
土居委員、及川委員、梨原委員、甲田委員、岩淵委員

材料技術部会：平成13年11月5日(月)13:30~17:00

金属材料部、化学部 7課題 鈴木委員、田面木委員
板橋委員、阿部委員、紺谷委員、岩淵委員、丹野委員

食品技術部会：平成13年11月9日(金)13:30~16:35

応用生物部 4課題 小林委員、中沢委員

(3) 部会の開催方法

研究担当者が委員に説明し質疑に対応後評価を受ける。

検討課題：平成14年度予定新規課題（事前評価）	4課題
平成13年度継続課題（中間評価）	11課題
平成13年度終了課題（中間評価）	12課題
平成12年度終了課題（事後評価）	5課題

(4) 外部評価結果

部会開催後出席委員から各課題について、4段階の評価基準により評価を受けた。

課題ごとの評価の平均は、4～2.6の間であった。

なお、評価結果は以下のとおりである。

平成11年度			平成12年度			平成13年度		
評価の平均	課題数	割合%	評価の平均	課題数	割合%	評価の平均	課題数	割合%
4	4	13	4	5	15	4	1	3
4未満 3以上	24	80	4未満 3以上	29	85	4未満 3以上	25	78
3未満 2以上	2	7	3未満 2以上	0		3未満 2以上	6	19
2未満 1以上	0		2未満 1以上	0		2未満 1以上	0	
合計	30	100		34	100		32	100
全課題平均	3.4		3.4			3.2		

評価基準 4：全体事業効果が極めて高い

3：全体事業効果が高い

2：全体事業効果が低い

1：全体事業効果が極めて低い

(5) センター内の対応

センター内評価、部会での評価を踏まえ、特に部会での評価が3未満の研究課題について、センターとして次のとおり対応したいとしていること。

立体像書き込みによる工芸品の高付加価値化(2.7) - 目的達成(終了)

持ち回り測定による三次元測定機の誤差評価(2.8) - 目的達成(終了)

CADデータ変換に関する支援事業(2.8) - 変更(内容見直して継続)

酸化物超電導バルク材料の接合に関する研究(2.6) - 継続

(科学技術的な観点から、超電導工学研究所との連携で取り組んでいることから継続としたこと。)

人にやさしい福祉機器の開発(2.8) - 変更(内容見直して継続)

(最終年度は試作品を絞り込み商品化、実用化に向けた取り組みを行うこととしたこと。)

天然物を利用した生分解素材の開発(2.8) - 継続

(13年度終了であり、研究成果を取り纏める方向で進めることとしたこと。)

なお、環境にやさしい光触媒抗菌装置の試作開発(3.2)は、既に実用化されている技術、特許など関連調査が必要等との部会の意見、所管課等の事業化に対する疑義等から、更に研究調査のうえ取り組みを検討することにしたこと。

また、試験研究は、部会の各委員からの貴重な意見、提言を踏まえ委員との連携を密にするとともに、試験研究評価についてもアドバイスを得ながら完成度を高めていくことにしていること。